

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400160		
法人名	(株)桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家荘内		
所在地	岡山県玉野市長尾333-3		
自己評価作成日	平成28年3月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成28年4月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が今まで生きて来られた人生を大切に、その人らしくいられる居場所作りを作り「もう1つの我が家」をモットーに職員一同、ケアの統一をめざし、入居者様の自立支援に向けたケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

機能低下の防止と楽しみ(音楽療法・ぬりえ・ゲーム・カラオケ等)又、一人ひとりに必要な支援に取り組んでおり、入居者の自由な暮らしぶりが窺えます。又、農作物(干しシイタケ)の手作業の一部を担っており、地域との関わりを大切にしながらこれからも地域の一員としての事業所の取り組みが窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームと地域の交流を大切にできるように理念に取り入れ、地域行事に参加し、つながりを大切にしている。	ホームの目標、介護理念又、毎年全職員による年間目標を定め、理念の共有と実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回に地域清掃には参加し交流をしている。ホームでの行事は、ちらしを配り、ご案内したり、地域の行事には参加している。	ホームの行事への参加を促したり、地域の行事への参加等行っている。運動会では地域の幼稚園から用具を貸してもらうなど連携がとれている一面もあるが、まだ全体的には少ないと考えており、課題として取り組んでいます。	これからも行事だけでなく、日々の生活の中でもつながりを見つけ、地域との繋がりを大切にしたい支援に取り組んでいられる事を期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方にも案内を送付しているが、参加されていないのが現状である。同じ地域のご家族様がおられるので認知症についての話はしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・御家族様から質問や意見がありサービス向上に活かされている。	地域包括センターの職員の参加があり、定期的に開催し事業所報告などを行っています。	参加人数が少ないようなので構成メンバーそれぞれに運営推進会議の目的、活用など案内し、一人でも多くの参加者による会議を開催しサービスの向上に活かしていられる事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者を中心に市町村担当者に毎月、事業所の現状報告や分からない事は連絡し連携をとっている。	介護保険課、福祉政策課など行政と随時連絡を取り協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開錠し、常に入居者様の所在確認を行っている。両ユニットの職員が協力し玄関の報知音が鳴れば、玄関の方へ確認に行く。	入居者の一人ひとりの生活パターン、又その日の言動等見極めながら2ユニットで協力し、拘束しないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、職員に高齢者虐待について話している。職員がストレスを抱えないよう、何かあったら、その日に解決できるよう話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について職員と学ぶ機会が持っていない。個々の関係者とは管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には分かりやすく要約しながら説明している。退居時には十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に年に4~5回、家族通信を出したり、面会時にはホームでの様子を話したりケアプランの説明する際、要望を聞いたりと常にコミュニケーションをとっている。	気軽に訪問してもらい、気楽に会話出来る雰囲気づくりを心掛け、意見や要望を汲み取り、職員と話し合いながら運営に反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開き、意見交換や不満・要望等、何でも言い合える雰囲気作りに留意している。	職員同士、チームワークを大切にしており、又気付きや要望が出しやすい環境づくりを心掛けて、意見の反映に努めています。高額な物品購入等企業グループ全体会議で進言し、話し合いながら運営に反映させるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、アセスメントを実施し評価している。人手不足で勤務的には厳しいものがある。資格取得に向けた支援は進んでして頂くよう支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での研修は提示し職員に希望を聞いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ハローワークで会社説明会時に交流し情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーの方やご家族の方から情報を収集し事前面接時に本人の要望や不安を聞き信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来られた時や電話での問い合わせ時に相談に乗り、不安や要望等をお聴きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り対応を行い、ケアマネジャーと相談し他のサービス利用をつなげる等、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の大先輩である事を職員に周知してもらい、普段から入居者様に教わる姿勢で対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を常日頃から伝える事で家族との協力関係が築けるようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂いたり、ご家族様が一緒に外出し行きつけの美容院やお店に出かけたりしている。	以前住んでいた近所の友達や親族、家族等よく訪問があり、馴染みの人との継続支援と馴染みの場所への外出など、関係が途切れないよう心掛け取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時間は同じテーブルで召し上がり、入居者様同士、円滑な関係を築く為、職員が声掛けし仲介役をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かありましたら、いつでもご連絡を下さいと伝え、継続的に付き合いができるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、コミュニケーションをとり、今の思いや希望を聞いたり、表情を読み取り不安なく生活できる様、努めている。	朝の挨拶、日中のさまざまな場面、又生活歴を探りながら、今日一日の暮らし方を見極め、興味をそそる事を探しながら自然の輪の中でその人らしさを大切にした支援を心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴シートをご家族様に分かる範囲で記入して頂き、サービスの利用に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時間によって入居者様の状態は違うので見極めながら、できることを見出し役割に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎にカンファレンスを開催し目標が達成できるような介護計画をたてるよう心掛けている。	生活歴シートや個別記録、カンファレンス、モニタリングにより個々の課題と援助目標を立て、随時現状に即した介護計画の作成に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ボールペンの色を変えながら、職員、皆が情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1度のボランティアによる音楽療法・訪問理容を実施し楽しんで暮らして頂けるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医や精神科医師とも連携をとりながら本人や家族が希望する医療が受けられるよう支援している。	協力医(内科・外科・歯科)や母体(精神科)による往診もあり、又、その他に専門医への受診も職員が同行して、受診前後家族へ報告し、本人家族の希望に添った医療が受けられるよう支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師が訪問されるので情報を伝え相談し指示を頂く。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーと連携をとりながら、早期退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ早い段階から主治医・看護師・家族・管理者で話し合い、情報交換や相談に努め、全員で方針を共有している。	看取りの指針を定めているが、まだ実践はない。現在、入居者の皆さんが元気という事もあり、重度化や終末期に向けた方針を職員間で共有しているというのが現状です。	看取りについて医療・看護・介護など多方面から検討を進め、少しずつでも具体化していき全職員で認識を深めて行かれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回は救急講習法を受けマニュアルや資料も現場に置き、冷静に落ち着いて対応できるよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。近所の方にもお願いしている。	昼夜を想定した火災時の避難訓練を(消防署の参加もあり)年2回行っています。地域への声掛けも行っているが、なかなか参加者がなく難しいのが現状です。	今の声掛けの継続と運営推進会議を活かし、地域と共に防災への知識を高め、災害対策、避難訓練に取り組んでいかれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対する言葉使いに気をつけ、常に人生の大先輩として敬意を払うよう心掛けている。	日々、場面場面でその人のプライバシーを損ねないように言葉や声掛けに気を付け、又全職員で情報交換しながら支援に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう選択する際は2つにしぼったり、分かりやすいよう、かみ砕いて声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ここは家だと思っていただけるよう自然な流れで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣服を準備したり、マネキュアをしたりお化粧をしたり、いつでも若くおしゃれに興味を持っていただくような声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備を職員と一緒にしたり洗い物をしたりと無理なくできることをして頂いている。	本社((株)桜梅桃里)の献立で食材を調理している。それぞれの出来る事、したい事を支援しながら食事の準備をし、食卓に上がった時手伝った入居者の得意そうな笑顔が見られました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量や水分量をチェックし水分が進まない方には、ゼリー状にしたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアを行い、本人ができない場合は介助し口腔ケアを行っている。又、週2回、訪問歯科の往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導表に記入し排泄リズムを把握し定期的にトイレ誘導を行っている。	尿意を感じた時点で失禁しているが、トイレで排泄する習慣を忘れずトイレに行く入居者への支援、自立と羞恥心の狭間で揺れる心情の思いを馳せながら、可能な限り気持ちよく排泄するための工夫に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や適度な運動、ご飯を炊く際は、粉かんでんをいれたり便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自宅で入浴していたように、リズムを狂わさないようにしている。時間は設定していない。	ホームの生活に馴れていない入居者もあり気持ちよく入浴してもらえる様、職員みんなで情報共有をしながら個々にそった支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子の方は同じ姿勢で座っているのは疲れる為、午後1時間ほどベッドで休んで頂いている。本人が休みたい時に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している薬剤師と連絡を取り合い、情報交換し服薬管理・症状の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴・趣味等を把握し役割をもって生活して頂いている。又、カラオケをしたりゲームをしたりとレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調が良い日・時候の良い日は散歩に出かけたりしている。外出行事には御家族様にも案内をし声掛けしている。	住宅街の中にあるホームで天気の良い日はベランダへ出たり、家族と車椅子で散歩したり、日常的な外気浴で本人に合わせた外出の支援を心掛けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談の上、施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は電話されている。ご本人様が希望があれば、その都度、ご家族様に連絡をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をプランターに植えたり、ホールにはアロマを置いたりリラックスして過ごすに頂くよう心掛けている。冷暖房の管理は職員が行なっている。	明るい造りのホームで食事のテーブル、ソファなどゆっくり過ごせる様に又、職員と一緒に作った入居者の作品を飾り、季節・生活感を採り入れ、居心地よく過ごせる様工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳みの部屋もあり落ち着いて過ごせる場所もあり、リビングにはテレビ・ソファ・カラオケを置き、ご自分の居室以外でも、のんびり過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自宅で使われていた家具やインテリアなど、お好きな物を持って来られ、なるべく御自宅に近い雰囲気になっている。	暮らし易いように一人ひとりの機能に合わせてベッド、家具など配置して動線を工夫した居室づくりが窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援にむけて「できること」を見出し、職員一同支援している。建物内部は分かりやすくドアに大きく「便所」と書いたり目印をしている。		